



# 与野本町小だより

～かしこい子 心ゆたかな子 たくましい子 助け合う子～  
ニコニコ・しっかり・美しく（本町の心）

8・9月号

令和6年8月28日

さいたま市立与野本町小学校

## 色々な人がいる

校長 小野圭司

1学期中は、本校に赴任して間もない私の対応を心配された方もいらっしゃると思いますが、保護者の皆様、地域の皆様の温かいご理解、ご支援のおかげで1学期を無事に終えることができました。本当にありがとうございました。

さて、2学期の始業式では、標題の「色々な人がいる」ことについて話をしました。

まずは、1学期の終業式で、夏休みの過ごし方の一つとしてパリオリンピックをテレビで応援するのもよいのではないかという話をしていたため、色々な国の人が参加していることはもちろん、勝ったり負けたりした時の気持ちの表し方が一人ひとり異なることを改めて感じたことを伝えました。

また、「平等」と「公平」についても以下のような話をしました。

まず、メガネのことを話します。校長先生はメガネを掛けることがあり、普段はメガネがなくても生活できますが、車の運転の時にはメガネがないと安全に運転ができません。車の運転の時にメガネをかけていない人もいますので「平等」ではありませんが、メガネのおかげで他の人と同じように「公平」に運転ができています。

次に、1年生と6年生の兄弟の話をしていきます。宿題の量は6年生の兄の方が多く、しかも取り組んでいる内容が難しく、量も多いので時間がかかります。当然、弟の方が早く終わり、先に遊び出しました。兄と弟の宿題の量は「平等」ではありませんが、弟よりも兄の方が多くのことをする力があるので、その力に合った「公平」な宿題の量だと思います。

さらに、3人の子どもが野球の試合を見ようとしている絵を4種類、見てもらいます。

1枚目の絵は、3人の前には壁があり何もしないと背の低い2人の子は見えない絵です。

2枚目の絵は、木箱を3つ用意して1人が1つずつ木箱を「平等」に使うと2人は見えるようになりましたが、一番背の低い子はまだ見えない絵です。

3枚目の絵は、背の高い子が木箱を使わないで、その分、一番背の低い子に木箱を2つ使い、みんなが「公平」に見えるようにした絵です。これならば3人とも試合を見ることができます。一番背の低い子が木箱を2つ使うのは、ずるいことでしょうか。木箱を使う数は「平等」ではありませんが、みんなが「公平」になるような心遣いがわかります。

4枚目の絵は、壁ではなく網目のフェンスに変えた絵です。これならば背の高い子も低い子も野球の試合を見ることができます。これは、「平等」であり「公平」でもあります。

たとえ木箱を使う数が「平等」でなくても、大事なことはみんなが「公平」に野球の試合を見ることを楽しめることであり、木箱を2つ使うからずるい、1つも使わないからずるくない、ではないはずです。そして、皆さんの周りには、メガネが必要な人、自分よりも年下の人、背が低い人や高い人など色々な人がいます。そのような色々な人が、楽しく勉強したり気持ちよく過ごしたりなど、みんなが「公平」に生活できるようにすることが大切だと思いますがいかがでしょうか。

このようなことを子どもたちに話をしました。長い休みの後には、心が不安定になる子もいます。そのような子たちの心配な気持ちや不安な気持ちを和らげるとともに、自分の周りには色々な人がいて、一人ひとり違っているのだと感じてもらいたいなと思っています。

結びに、夏休み中も様々な災害があり、今後も災害が起こる可能性があります。暑さや雷、大雨、地震など心配は尽きませんが、本校といたしましては、学校が子どもたちの安全・安心な場所となるよう2学期も教職員一丸となり対応してまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。